

特集
Special Section

岡山大学の進むべき方向を示した、森田潔学長の「森田ビジョン」発表から1年。岡山という都市で、そして世界で存在感を発揮するため、岡山大学は変化を始めている。改革加速へ、今年はまさに「勝負の年」となる。

街へ、世界へ——
存在感を発信



改革加速へ 勝負の1年

特集
Special Section

●学長に聞く 大学の針路



いちょう並木編集長
後藤 邦彰
(工学部教授)

同副編集長
林 創
(教育学部准教授)

Interviewer

昨年4月の就任以来、次々と改革の風を吹かせている森田潔学長。大学という“巨大船”の船長として、岡山大学をどのような方向に導くのか。1年間を振り返るとともに、今後の展望を聞いた。



—学長に就任された時に打ち出した森田ビジョン。1年間の進展具合は。

変化を起こすのは想像以上に難しかったというのが実感だが、いったん動き出すと改革のスピードは上がる。車でいえば最初の1年はローギアの時。もう少しドライブに入れる時がある。変化が目に見える、みんな納得して変化への抵抗感がなくなる。この1年間で勝負だ。

—昨年の「いちよう並木NOGS」で、学長特別補佐である建築家ユニット「SANA A (サナア)」の妹島和世さん、西沢立衛さんに、新キャンパス構想を伺った。具体化しているか。

やつとスタート台に立ったところ。妹島さん、西沢さんから提言を受け、今後学内委員会で議論していく。鹿田

地区は400〜500人規模の集会ができるホール、津島地区はカフェをきっかけに、キャンパス全体を美しく作られる。

津島の問題は、道路がキャンパスを三つに分離していること。三つを一体化して中央を公園化、市民も入れるカフェを作る。テニスコートや球場、グラウンドなど学部ごとに分散している施設を集約し、空きスペースを有効に整備したい。計画実現には10年、20年かかるが、今年は南北、東西道路周辺に目に見える変化を起す。

—キャンパス構想に関連して、市民が自由に大学内へ入ってくることに抵抗がある教職員や学生もいるかもしれないが。

まずは学生や教職員が街へ出て行く環境を作りたい。6月に、岡山県総合

センター(AGORA)の活動も始まり行政との関係を深めたいが、まだ敷居が高い。将来は大学への強い愛着を持った卒業生に知事や市長になってもらい、バックアップを期待したい。AGORAなどを核に、シンクタンクとして知識を蓄積して行政に関与していきたい。

—昨年10月に初めて開催したホームカミングデイも含めて、大学同窓会をどのように考えているか。

大学の力を社会に示すには、可能な限り自前でやる必要がある。運営費交付金などでお上の顔色をうかがってばかりではやりたいことはできない。学生と教職員に加え、同窓生、市民を味方にすれば、外圧に対して毅然と戦える。最近では「国立大学が多すぎる」という声も聞かれるが、国に頼っているは従うしなくなる。研究室ごとに同窓生と連携して寄付や研究資金を集める力を高め、大学全体が力を持つことが必要だ。

—大学の力を結集する求心力の中心として、今年4月に使用が始まったコミュニケーションシンボル。その意図は。

現状では単科大学の集まりのような岡山大学が、一つになって力を発揮す

福祉会館(岡山市北区石関町)内に、大学の存在感を発信する「まちなかキャンパス 城下ステーション」ができた。大学の情報が何でも手に入るカフェのようなイメージ。いずれは教員が市民に講義できるような場所になりたい。大学も病院も特別な場所ではなく、可能な限りオープンにする。

—建築家を学長特別補佐に起用し、キャンパスプランニングを依頼するのは斬新。起用の意図は。また2人が提言する「大学と地域の調和」に向け、地域との連携は進んでいるか。

学長特別補佐という公的な立場なら助言を受けやすく、学内にも説得力があると思った。提言を聞くと、大学作りのビジョンなど私の考えにも非常に近かった。サナアの存在は、外部の人に岡山大学に注目してもらおう良いきっかけになると思っている。

私自身が岡山県出身で、岡山を盛り上げたいという思いから打ち出した学都構想。サナアの2人も大学と都市の融合を視野に入れている。岡山は欧米の都市のように大学が存在感を示せる都市。駅から歩いてこられる距離にこれだけ広大なキャンパスを持つ大学はほかになく、生かさない手はない。

存在感を高めるには産学官一体化が必須。産業界とは経済同友会に入り結びつきを強めている。地域総合研究

るために、みんなが信頼を持てる共通のシンボルを作ったかった。ODマークでは大学の「D」が外国人に伝わらないので、国際化時代に合わせOUにした。積極的に使ってほしい。

—森田ビジョンの柱の一つである世界との連携、世界を見据えた人材輩出はどう考えるか。

グローバル化は大学の使命だが、かなり遅れている。岡山大学では外国からの留学生は現在約500人。少なすぎるので6年で倍増したい。4月には留学生の6割を占める中国に、北京事務所を開設。今後は要望の多いタイ、バンコクやインドネシアにも開きたい。教職員の海外渡航回数も、同一規模の広島大学などに比べ半分くらいなのも問題。海外の学会で発表する際、旅

費の支給回数などを増やす必要がある。教授もサバティカル(長期研修)制度などで、1か月くらい海外で充電した方がいい。

世界標準語であり避けて通れない英語教育も遅れている。岡山大学に入れば英語が身につく環境にしたい。海外へ行く機会を増やすため、アメリカ・ピッツバーグやフランスなどで連携校を増やす取り組みも進めている。

今の学生は内向きと言われるが、私たちの学生時代と違い、海外にはよく行っている。ただ旅行と滞在は意味が違う。滞在の苦労こそが大事だ。私自身ニューヨークに2年間滞在し、人生が変わった。留学は自分自身を一回り大きくさせ、後輩たちに海外滞在の大切さを納得してもらおうことにもつながる。そういう人材が増え、キャンパス全体がグローバル化することが必要だ。



OKAYAMA UNIV.

コミュニケーションシンボル 【Intelligence OU】

岡山の「O」、総合大学の「U」をデザインモチーフにしています。全体のフォルムは、常に世界に向かって開かれる「知の扉」を表現しており、岡山から「知のコミュニケーション」が始まってゆく様子をイメージしています。ブルーを中心とした色調は、岡山大学の叡智を表現するとともに、瀬戸内の空や海を象徴しています。



理想の大学

特集
Special Section

岡山大学で学ぶ学生たちは、大学に対してどんなイメージを抱いているのか。キャンパスや授業の現状と未来について、学生3人と森田潔学長が率直に意見を交わした。

司会進行
編集長▶後藤 邦彰 (工学部教授)
副編集長▶林 創 (教育学部准教授)

—学生と学長が話す機会はなかなかない。まず学長に質問があれば。

須田▶1日のスケジュールは。

森田▶毎朝7時半ごろ大病院に行き、10時からは津島の学長室に移り夕方まで執務。毎週木曜午後は神戸に行き、麻酔科学会事務局で理事長として仕事をする。

片岡▶津島、鹿田キャンパスを一体化したいと聞いた。特に私は文系なので鹿田には行ったことがない。一体感を出すために何かが必要か。

森田▶地理的に分かれていることで、精神的にも分かれている。大学全体で力を発揮するため、「岡山キャンパス」内の北、南キャンパスという名称案も考えている。両地区を結ぶ交通機関も必要。バスは岡山駅と鹿田間を毎日運行するようになったが、鹿田(駅)津島を毎日往復するルートがほしい。将来的には電車もできればいいが、津島の学生が気軽に行けるよう、大病院を学生無料にしたかどうか。鹿田にホールを造る計画もあるのでぜひ使ってほしい。

高橋▶大学間の連携は進んでいるか。
森田▶今は広島、神戸大学など同規模の国立大学と交流を模索している。広島大学とは長年ライバル関係だったが、信頼関係を醸成するよう理事同士で会合を行っている。岡山大学と同じ「旧六」と言われる新潟、金沢、千葉、熊本、長崎

大学とも連携できないか模索中。出身教員が多い旧帝大の京都大学とも組めたらと構想している。他大学の講義を受講できる仕組みができればいい。

—学生にとって居心地の良い大学にするためどこを改善したらよいか。

高橋▶一般教養棟にある自学自習スペース「Walk」(ワクワク)スクエア。「意欲やアイデアがわく」という意味だっ

たと思うが、「通り抜け禁止」や「静かに」など注意書きが増え、学生同士で議論しにくい。複数の大学が集まる活動をした時も学内にミーティング場所がなかった。授業外に集まれるスペースがあれば、学生が主体的に学ぶアクティブラーニングにもつながる。

片岡▶もっと勉強場所の確保を。テスト期間中は図書館に人があふれ、いすも少ない。法学部では判例や学説の解釈で議論が必要だが、図書館の個室もテスト時期は空いていない。
高橋▶図書館も、鹿田地区は24時間開い

学生の集まれる場が必要



高橋 和▶たかはしのどか
文学部人文学科 4年

ているそうだが、津島でもぜひ実現してほしい。

森田▶集まって議論している学生が少ないのではなく、集まる場所自体が学内に少なかったのか。本来図書館はそういう役割を担う場所だが、スペースに限りがある。一方でキャンパスは広いのに有効に活用できていない。一般教養棟の利用率を調べたら、実はそれほど高くないというデータがある。無駄な講義室をまとめて整理したら、学生が集まる場所に組み替えられるのでは。津島にカフェを作るプランもあるので、将来的にはもっと集いやすくなると思う。

—教養科目は意味があったと思うか。

片岡▶勉強というより楽しいイメージ。ただ理系科目の履修は大変だった。



片岡 英子▶かたおかひでこ
法学部法学科 4年

文理の境ない教養教育を

教授が2週ごとに替わる授業で、中には理系向けに化学式をひたすらスライドで流す先生もいた。興味はあるが、文系にも分かるように教えてほしいのが本音。

須田▶知識がいろいろ増え、世界が広がる感じがした。初級外国語についてはもう少し教養科目で強制的に勉強させた方がいいと思う。僕自身は専門科目で補ったが、「初級単位だけではいい」では身につかない。

森田▶教養教育はこれから大改革する。特に英語教育は単位が少なすぎるので増やしたい。英語教育はグローバル

ル化ではないという人もいるが、今の学生は日本企業に就職しても、「日本国内だけで働き英語は必要ない」という時代ではない。入学直後のTOEICが高得点だった人は、もっとグレードアップできる仕組みにする。本来教養は文系・理系共通だが、今は文理が分かれすぎている。もっと互いに近付かなければ。

—卒業後も誇れる大学にするため、学長に要望を。

森田▶岡山大学は京都、大阪にも近く、キャンパスも市街地にあり抜群の立地。海外の学生も注目している。しかし「マイナーなイメージがある」と出身であることを隠す卒業生もいる。これではいけない。どうすれば

誇りを感じられるようになるかアイデアを聞かせてほしい。

須田▶岡山大学が全国初で取り組むなど、パイオニアになれば絶対自慢できる。東大の「秋入学」のような衝撃的なものを期待している。

片岡▶特徴的な授業や研究があれば、説明する時にわかりやすい。

高橋▶岡山大学発の学生発案型授業など良いものもあるが、学生自身ももっと学内の動きを知ることが必要。知ればもっと学外に自慢できる。

森田▶皆さんしっかりと意見がある。皆さんのような学生が卒業していけば、岡山大学が社会に誇れる大学になるのでは。ぜひお互いに頑張ろう。

大学界のパイオニアに



須田 康友▶すた やすとも
文学部人文学科 4年

卒業生が誇れる大学に

